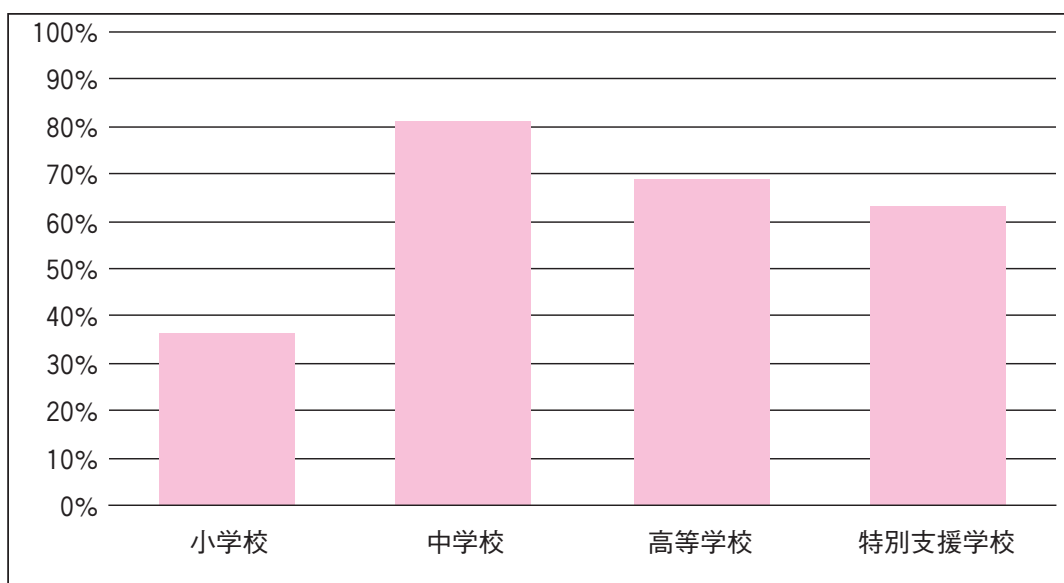


資料編

性に関する指導における外部講師活用状況調査の概要

- 調査時期：平成 26 年 7 月
- 対象年度：平成 25 年度
- 調査対象：長野県内の公立小学校(370 校)，中学校(187 校)，高等学校(全日制 83 校，定時制・通信制 22 校)及び特別支援学校(19 校) 延 681 校

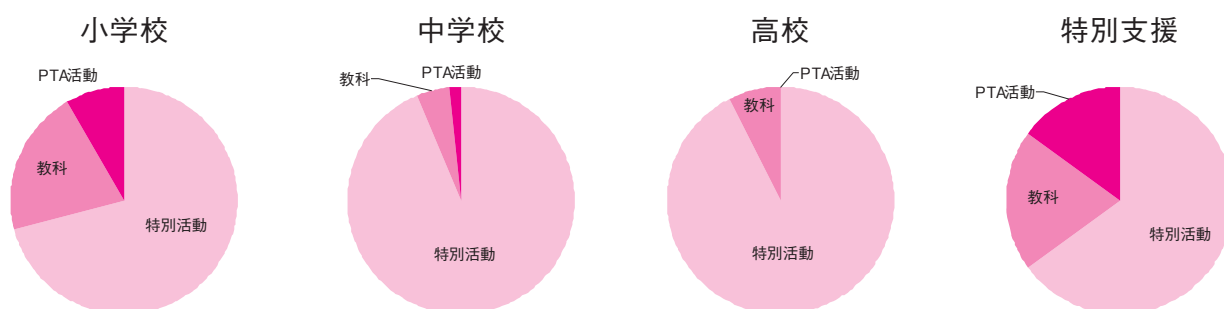
1 外部講師活用の有無



○中学校 8 割，高等学校（全日制）7 割程度が，外部講師を活用して指導を行っている。

2 実施した内容

(1) 実施回数

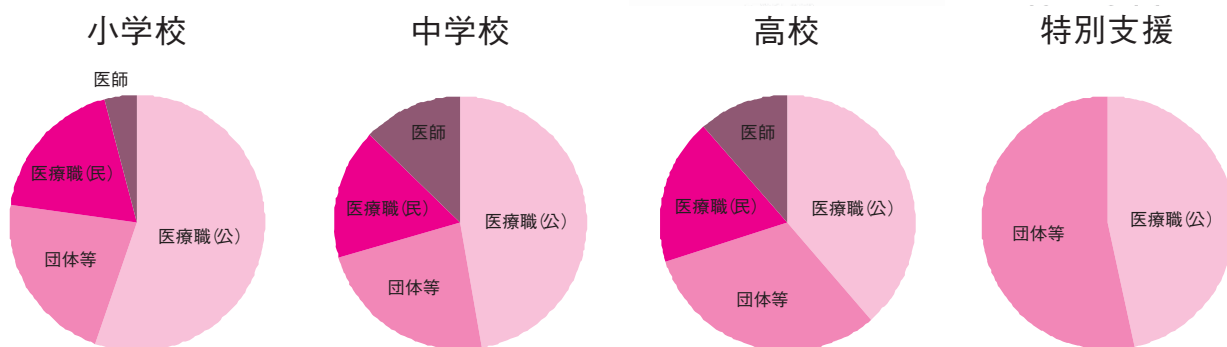


○全校種合計で，延 637 回実施されている。

○いずれの校種も，「特別活動」で実施している割合が最も高い。

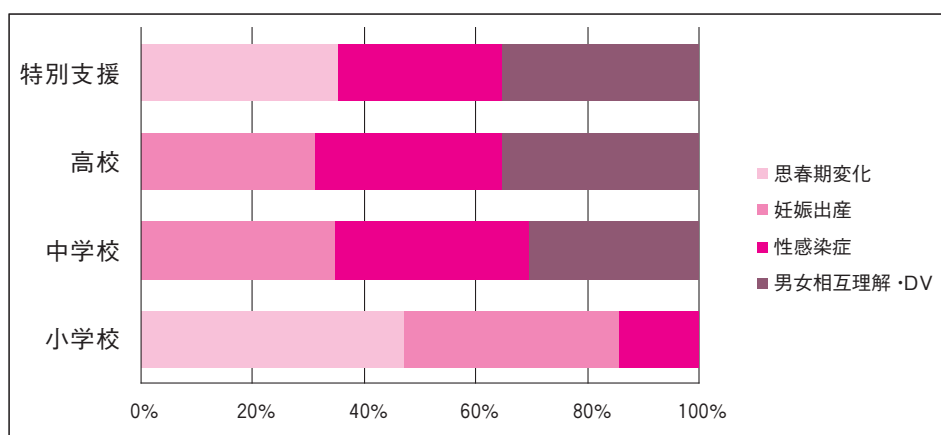
○小学校及び特別支援学校は，教科（体育等）で実施している割合が他の校種より高い。

(2) 講師の職種等



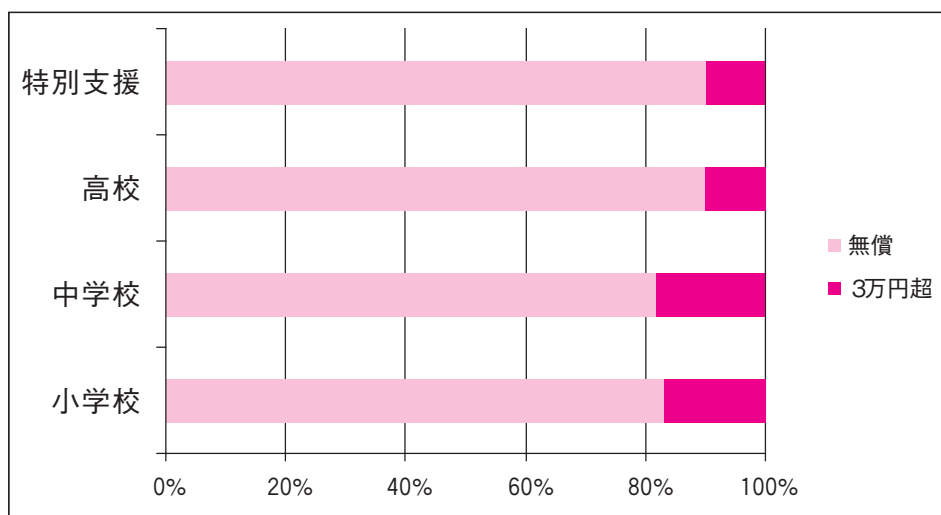
- いずれの校種も、「公共機関所属の医療専門職(保健師・助産師等)」の割合が高い。
- 団体や大学教員等へ依頼している割合は、小・中学校2割、高等学校3割程度であり、特別支援学校は5割を超えている。

(3) 指導内容



- 小学校では、「思春期の体の変化」や「妊娠・出産」に関する指導の割合が高いが、他の校種では、幅広い内容に触れている。
- 乳児との触れ合いや出生前診断など、自己肯定感醸成や現代的課題への取組も見られる。

(4) 1回当たり当の経費



- 各校種とも「無償」の割合が最も高いが、3万円超、5万円超の例も見られる。

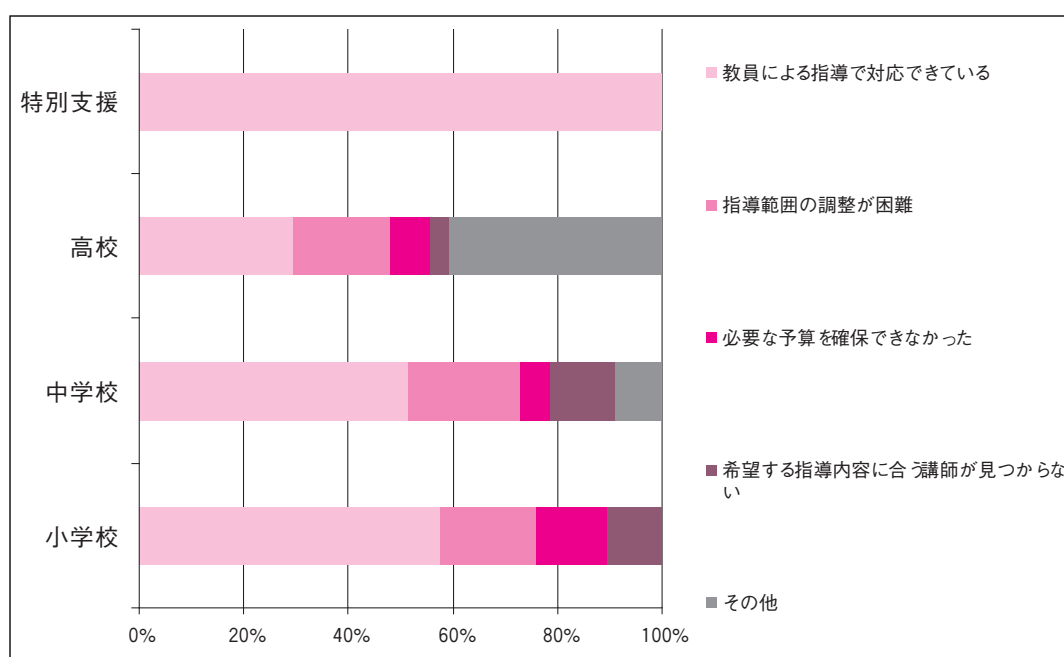
(5) 実施した感想・課題

- 多くの学校が「学校だけではできない効果的な指導ができた」としている。
(実施校のうち 96.7%—354 校)
- 「内容不十分」「指導していただく範囲の調整が難しい」等の意見は少なかった。
(実施校のうち 11.2%—41 校)

【自由記述による主な感想・意見】

- ・助産師等の仕事について学ぶ機会にもなった。
- ・最新の情報を取り入れてほしい（講師:大学教授）。内容が多すぎて理解が難しい。
- ・事前・事後の打合せや、教員による事後指導（関連内容の授業）が効果的である。
- ・特別支援学級に対する指導が難しい。
- ・男女別に分けることが効果的である。
- ・無償の場合、講師（職種）が限定される。

3 外部講師を活用しなかった主な理由



- 小学校、中学校及び特別支援学校では「教員による指導で対応できている」という理由が最も多く、中学校では「時間が確保できない」という理由も複数見られる。
- 高等学校は「教員による指導で対応できている」が減り、「時間が取れない」「人権教育等と隔年で実施している」といったもののほか、「県外専門研修等で専門性を身に付けた教員が指導している」などの理由が見られる。